

受講内容

・老視の仕組み、矯正について

加齢により水晶体の弾力が失われて調節する力が弱まる事を老視という。
調節力の不足によって近方の像が網膜上結像しないため、適正な+レンズ（加入）が必要となる。

・遠近両用コンタクトレンズのデザインと特徴

HCL…交代視型 近方を見る時は目線を下に下げる。
遠方と近方が **SCL** よりも見やすい。
遠近 **HCL** においても角膜乱視矯正が可能。
ただしセンタリングが合わなければ難しい。
まばたきでぼやける、単焦点レンズよりもぼやける。

SCL…同時視型 遠方と近方の像を同時に目の中へ入れる。
いつもぼやけた光が入るため、球面レンズよりも多少見え方が劣る。

デイリーズトータルワン **MF** は、**Low**～**Hi** まで全て同デザイン（中心から外側に向かって徐々に度数が変わって行く累進レンズ）

・処方実習

- ① 問診 患者さんのパーソナルデータを収集
年齢 CL使用経験の有無 使用用途 物の見たい距離 CLの使用頻度
今まで使用していたメーカーや度数 現在困っていること
- ② 屈折矯正検査 CL装用中であれば見え方の確認（遠近共） その後、裸眼矯正視力検査行う。
遠近どちらを優先したいか確認する。
- ③ トライアルレンズ選択 矯正値を参考に選択。（遠方の見え方は弱めの方が好ましい）
- ④ フィッティングの確認
- ⑤ 度数決定

感想

今まで遠近 CL 処方の際は、検査データに基づいてこの年齢ならばおおよその位だろうという見当を付けて度数選択を行っていましたが、今回の講習を通して、患者さんの希望をまず優先する事が大切なのだと実感しました。強めの見え方が好き、弱めが好き、近くを見たい、遠くを見たい。患者さんの希望を優先する事で満足感を持って頂けるのだと思いました。今後は患者さんの希望を優先しながら、尚且つ患者さんに合った最良のレンズを選択できるように検査を行いたいです。